

UNI-SIGHT

Insights about UNIVA group's Human, Knowledge, and Financial capital



HUMAN INSIGHT

生まれた国も、
裕福な生まれすら関係ない。
可能性は心が開くことを、バレエから伝えたい。

ABC-Tokyoバレエ団設立者 クリスティアン・マルティーンヌ & 三谷梨央

経営陣メッセージ

一人ひとりの揺るぎない意思とチームワークを通じて未来を構築する »

UNIVA Topics »

HUMAN INSIGHT

生まれた国も、裕福な生まれすら関係ない。可能性は心が開くことを、バレエから伝えたい。 »

クリスティアン・マルティーンヌ



1980年にウィーン国立歌劇場バレエ団に入団。有名なウラジミール・ツカノフとビルジニア・ツカノワ両氏の薫陶を受ける。1995年に「オーストリア・バレエ・シアター」を設立。その後、アメリカのバレエスクールでダンサーや芸術監督として活動した後、2003年に日本へ。妻の三谷梨央とABC-Tokyoを設立。2012年、NBA全国バレエコンクールで指導者特別賞を受賞。

三谷梨央



1歳からウィーンで育つ。7歳からバレエを始め、ウィーン国立バレエ学校を経て、公認バレエ指導免許を取得。オーストリア、アラスカ、シアトルなどで活動の後、日本で夫とABC-Tokyoを立ち上げる。2005年愛知万博での公演など、国内外を問わず幅広く活動。2010年、青少年のためのバレエ・コンクール・ザ・バレコン東京で優秀指導者賞を受賞。

BACK NUMBER

Vol.35

HUMAN INSIGHT: 生まれた国も、裕福な生まれすら関係ない。可能性

は心が開くことを、バレエから伝えたい。

Vol.34

HUMAN INSIGHT: 趣味を仕事にする、それは最高なこと。英国人落語家 ダイアン吉日

Vol.33

HUMAN INSIGHT: 世界平和を「1日」実現した、ある「1人」の物語。NGO法人Peace One Day代表 ジェレミー・ギリ (Jeremy Gilley)

Vol.32

HUMAN INSIGHT: 大切なのは何が自分の価値か、“理解”すること。日本人のミス・ユニバースを世界レベルに育て上げたビューティ・エキスパート

Vol.31

HUMAN INSIGHT: “80後”世代が挑む、中国の「スターバックス」創造。白富美 廖韋佳

Vol.30

HUMAN INSIGHT: なぜ今、私は惹かれているか？追いかければ、下水道でも、道は開ける。

Vol.29

HUMAN INSIGHT: 何でも力にできることを、マラソンから学んだ。

UNIVAのあしたをつくる人に贈る賞
UNIVA AWARDS 2015特別号

Vol.28

HUMAN INSIGHT: 政治ってめちゃくちゃ面白い。挫折や失敗を恐れないう「未来志向のススメ」！政治ジャーナリスト 松井雅博

Vol.27

HUMAN INSIGHT: 誰が相手でも、語る夢は変えない。株式会社ユーグレナ代表取締役社長 出雲充

Vol.26

HUMAN INSIGHT: やりたいことは今できなくても、宿題として胸に宿しておく。ドリアン助川

Vol.25

HUMAN INSIGHT: 「数寄（すき）」なように、茶を楽しむ。茶人・松村宗亮

Vol.24

特集：ナチュラループラス、オペラハウスの奇跡と、その軌跡。

Vol.23

特集：2020年、上場宣言。IPSとユビキャストがひとつに。新会社「UNIVA Paycast」始動。

Vol.22

特集：自分たちが欲しいものを作る。シンプルな発想から生まれた、ユビキャストの新サービス「Gyro-n SEO」

Vol.21

特集：MLMのメジャーリーグに挑戦するNPUSA

Vol.20

特集：経営思考に火をつける。

本物のバレエは、日本で学べない？

バレエと言えば「高貴な芸術」、「ヨーロッパのもの」と思われていることでしょう。しかし近年では世界トップバレエ団のプリンシパルにも日本人が選ばれ、脚光を浴びています。そして、そこに立った日本人ダンサーは例外なく、ヨーロッパへバレエ留学を経験しています。バレエの世界で一流を目指すなら、ヨーロッパにバレエ留学をしなければ通用しない・・・、そういった観念は今も日本のバレエ界に根強く残っています。そんな中、「東京でバレエ留学」というスローガンを打ち出したバレエスクールが東京にあるのです。

それが『ABC-Tokyoバレエ団』の付属学校『オーストリア・バレエ・スクール』

(<http://www.abc-tokyo.com/jindex.html>)。設立者は芸術の都、ウィーンで学び、欧米の様々な国でダンサーや芸術監督として活動してきた、クリスティアンさんと梨央さん夫婦です。2003年に日本に戻ってきた梨央さん夫婦。最初はバレエスクールの先生をしたり、舞台上でゲストダンサーとして活動していました。こういった活動から日本人のダンサーをウィーンのパレエフェスティバルに連れて行くことになったのをきっかけに、東京でバレエ団を作ろうと思い立ち、2004年に『ABC-Tokyoバレエ団』を設立しました。

当初、お二人は日本で有名ではなく、人脈もなく、経済的な余裕もなく、、、バレエ団を作ることに対し、周りの日本人ダンサーの反応は「大変そう...」・「無理だよ...」とネガティブなものが多かったと言います。そんな状況の中で設立された『ABC-Tokyoバレエ団』。現在、12年間の活動と



努力を経て、3歳－11歳の子ども向けの子どもバレエスクール、12歳－18歳ユース向けのバレエスクール、バレエ先生を育成するスクール、そして公演などを行うバレエ団を、様々な年齢に合わせた教育体制とプロとしての活動の場を持つにまで至りました。

バレエの育成システムに、日本とヨーロッパの差。

では、東京なのに「バレエ留学」というのはどういうことなのでしょう？その答えが実力主義であることです。2009年に設立された付属学校『オーストリア・バレエ・スクール』。ここにあるのは、習い事や趣味としてのバレエではなく、プロとしての技術や覚悟を教えるシステムです。ここで才能が認められた子供には、全額の奨学金を出されます。つまりプロを目指す子が、お金を気にすることなく、ここで本格的なバレエが学べる環境を創ったのです。もちろん、このコースを修了したら、海外のどのバレエ団に入ってもハイレベルのダンサーとして活躍できる実力を備えています。事実、世界的なバレエ団で踊っている卒業生も輩出されています。

この奨学金プログラムは、単にお金の問題ということではないのです。ヨーロッパではバレエは純粋なアートであり、才能のある子に無償で教えるべきもの。だからこそ、才能ある者が集まり、魅力的な市場を形成しています。一方、日本バレエ業界の現状はというとそれと雲泥の差。日本のバレエスクールの収入源は月謝以外に、発表会。生徒は発表会にデビューするため、参加費、衣装代、パドドゥ代など数十万円をスクールに払わないといけない。これは日本バレエ業界では裏の常識と化していたのです。また、この発表会のチケットも、生徒自身が買い取って販売するのです。もちろん売れなければ、無料で配ったりする。これでは才能のある子供がバレエをやる環境に程遠い・・・本場ウィーンのパレエ団を経験したクリスティアンさんと梨央さん夫婦は痛感していました。

だからこそ、生徒に発表会の負担をかけない。これはABC-Tokyo設立当初に2人が決めた方針でし

Vol.19

特集：ナチュラループラスインドネシアは、神話となれるのか。

Vol.18

特集：米国に挑む。カラオケビジネスで挑む。

Vol.17

特集：「XSP」～35歳の新社長が掲げる旗～

Vol.16

特集：「UNIVA-SALな人材」が、ブランド価値を決める。

Vol.15

特集：輝く！UNIVA AWARDS 2014 後編

Vol.14

特集：輝く！UNIVA AWARDS 2014 前編

Vol.13

グループ事業会社の方々からのメッセージ

Vol.12

バックオフィス業務を生業にする-インデックス

Vol.11

マードウレクスの快進撃は止まらない。

Vol.10

広告ビジネス進化論-マネジメントクラス編

Vol.9

上昇気流を生み出せ！『プロジェクトRise』

Vol.8

省エネと省コストと、エスコ。

Vol.7

グローバル化のカギを握るものとは？

Vol.6

グループ拡大を支える財務中枢へ、UCHKがめざすもの。

Vol.5

グローバル戦略の展望に迫る！-DMHK

Vol.4

時代とともに変化することを選んだコールドフュージョン

Vol.3

社員総会特集 NAKAMA + ? = SYNERGY

Vol.2

IPOまでどれぐらいの距離があるのか？-ユビキャスト

Vol.1

なぜナチュラループラス台湾は成長

BACK NUMBER

Vol.35

HUMAN INSIGHT: 生まれた国も、裕福な生まれすら関係ない。可能性は心が開くことを、バレエから伝え



た。もっと多くの、才能がある日本の子供たちが気軽に本当のバレエを学べる場を提供したい、その思いをカタチにしたのです。

世界を知るからこそ、日本人に合った世界のバレエを教える。

またバレエの指導方法についても、ABC流の独特なメソッドがあります。「ロシアバレエはエレガンスと力強さ、高度なテクニックという特徴があり、バレエ界では世界的な権威と誰もがその存在を認めています。私がウィーンで習ったのも、ロシアバレエでした。しかし、ロシアンメソッドは日本人の体型に向いていないのです。そのまま教えてしまうと、日本人の体ではケガをしやすい。それでは世界での活躍は難しい。そこでロシアバレエの深く理解しながら、さらに自分の経験を活かし、日本人に合わせたロシアンメソッドを作ったのです。これをマスターしてもらうことで、ダンサーは足が高く上がり、さらに回転できるようになり、ジャンプも高くなる。ロシアバレエの長所を、ケガすることなく習得できるようになります」と梨央さんは伝えてくれました。単なる独自というだけに留まらない、世界を見据えた活躍を前提にした独自メソッド。ここにABC-Tokyoの付属スクールが他のバレエスクールと一線を画し、東京でありながら「バレエ留学」という言葉を使う理由があるのです。

バレエで「一流」と呼ばれるために、必要な条件。



バレエとともに生きてきた二人に、バレエダンサーに大切なことを聞いてみると意外な答えが返ってきました。「人に何かを与えたいという優しさ。自分のためだけに踊っている人はいくら技術が

たい。

Vol.34

HUMAN INSIGHT: 趣味を仕事にする、それは最高なこと。英国人落語家 ダイアン吉日

Vol.33

HUMAN INSIGHT: 世界平和を「1日」実現した、ある「1人」の物語。NGO法人Peace One Day代表 ジェレミー・ギリ (Jeremy Gilley)

Vol.32

HUMAN INSIGHT: 大切なのは何が自分の価値か、“理解”すること。日本人のミス・ユニバースを世界レベルに育て上げたビューティ・エキスパート

Vol.31

HUMAN INSIGHT: “80後”世代が挑む、中国の「スターバックス」創造。白富美 廖韋佳

Vol.30

HUMAN INSIGHT: なぜ今、私は惹かれているか？追いかければ、下水道でも、道は開ける。

Vol.29

HUMAN INSIGHT: 何でも力にできることを、マラソンから学んだ。

UNIVAのあしたをつくる人に贈る賞
UNIVA AWARDS 2015特別号

Vol.28

HUMAN INSIGHT: 政治ってめちゃくちゃ面白い。挫折や失敗を恐れない「未来志向のススメ」！政治ジャーナリスト 松井雅博

Vol.27

HUMAN INSIGHT: 誰が相手でも、語る夢は変えない。株式会社ユーグレナ代表取締役社長 出雲充

Vol.26

HUMAN INSIGHT: やりたいことは今できなくても、宿題として胸に宿しておく。ドリアン助川

Vol.25

HUMAN INSIGHT: 「数寄（すき）」のように、茶を楽しむ。茶人・松村宗亮

Vol.24

特集：ナチュラループラス、オペラハウスの奇跡と、その軌跡。

Vol.23

特集：2020年、上場宣言。IPSとユビキャストがひとつに。新会社「UNIVA Paycast」始動。

Vol.22

特集：自分たちが欲しいものを作る。シンプルな発想から生まれた、ユビキャストの新サービス「Gyro-SEO」

Vol.21

特集：MLMのメジャーリーグに挑戦するNPUSA

Vol.20

特集：経営思考に火をつける。—UNIVA主催セミナー第一弾in台湾



優れ、体が研ぎすまされていても限界がある。どんな分野でも一流と呼ばれる人は『誰かのために』という部分を必ず心の底に持っている。感謝の気持ち、誰かと共有したいという願い、そんな利他の心が必要です。一流のダンサーは、単なる美しさを超える「凄さ」を必ず備えている。その「凄さ」の正体こそ、『誰かのために』という心なんだと思います」と語る梨央さん。その上で・・・「精神的な耐久力。キャリアの中で誰もが必ずアップダウンを経験する。ダウンの時に情熱が消えてしまったら、そこで終わり。心のスタミナが、大事なのです」・・・クリスティアンさんは付け加えました。

バレエを指導していく中、二人はバレエ以上の伝えたいことに気づきます。「バレエだけでなく、自分の可能性を広げて夢を実現するお手伝いをしたいのです。卒業生が海外の有名なバレエ団で踊っていることは当然自慢です。でも、たとえばシャイだった子が精神的に強くなり、かつての自分と同じようなシャイな子を励ませるようになったとか・・・。そんな人間的な成長こそ、今は最も嬉しいと感じます」。

そんな彼らの取組として行っているのが「ライフレッスン」。「ゲストスピーカーを呼んで、『生きるとはどういうことなのか？』を語ってもらう場をレッスンの中に作ってるのです。精神的な支えをバレエを通じて、会得して欲しい。子供たちを勇気づけるものを、たくさん与えたいと思っています」。

最後に、今後の夢について伺いました。「今までは子供バレエスクール、ユースバレエスクール、公演とそれぞれ単体で活動をしてきました。これからはそれらをグループ化したい。子供のバレエスクールから先生の育成スクールまで、垂直統合されたバレエ教育システムを構築します。そして、思いを未来へ繋いでいくために後継者が重要。指導者を育て上げる。そのためにはメソッドや知識を教えるだけではなく、心。その心を私たち二人が体現していなければいけません」。そういう彼らの瞳は、迷わない未来を見つめているようでした。

取材を終えて、今の“NAKAMA”が活かせる学び。

・クリスティアンさんと梨央さんの一番誇りに思うアチーブメントは「生徒たちが人間として成長したこと」だと言います。この答えを不思議に思っていたら、その後の会話で答えが見つかりました。芸術を追究する道は情熱・孤独・狂気などが常に伴います。健全と健康なメンタルがないと、迷い、危険な道に入りやすい。だからこそ一流のバレエダンサーになるためには、まず一流の人間にならないといけない。これはビジネスでも、アートでも通用する鉄則：「まずはいい人間になる」。

・クリスティアンさんがバレエを始めたのは15歳。それまでは功夫（カンフー）を習っていたのだそうです。功夫とバレエの共通点を見つけ、また功夫で学習したことをバレエに適用し、ウィーン国立歌劇場バレエ団のメンバーになりました。梨央さんもアジア人体形というデメリットからたくさんの挫折があったそうです。その後、梨央さんは自分ができると信じてくれる先生と出会い、自信が生まれ、自分の短所を長所としてアピールできるスタイルが確立したと言います。異端、ひとと違うことは「短所」ではなく、気持ちと自信があれば他が持ち得ない「長所」へと変貌します。

・「本当」のバレエを日本に伝えたいと思う二人。ここで言う「本当」とは、利他のところや、生徒に経済的な負担を感じさせないバレエ教育システムをむしろ意味します。これは日本バレエ業界の現状を覆す革命、容易ではない。そんなお二人の執着はバレエへの「愛」から来ている。「愛」とはモチベーション、「愛」とは執念。私たちも「愛する」ものを見つけましょう。

Vol.19

特集：ナチュラリープラスインドネシアは、神話となれるのか。

Vol.18

特集：米国に挑む。カラオケビジネスで挑む。

Vol.17

特集：「XSP」～35歳の新社長が掲げる旗～

Vol.16

特集：「UNIVA-SALな人材」が、ブランド価値を決める。

Vol.15

特集：輝く！UNIVA AWARDS 2014 後編

Vol.14

特集：輝く！UNIVA AWARDS 2014 前編

Vol.13

グループ事業会社の方々からのメッセージ

Vol.12

バックオフィス業務を生業にする-インデックス

Vol.11

マードウレクスの快進撃は止まらない。

Vol.10

広告ビジネス進化論－マネジメントクラス編

Vol.9

上昇気流を生み出せ！『プロジェクトRise』

Vol.8

省エネと省コストと、エスコ。

Vol.7

グローバル化のカギを握るものとは？

Vol.6

グループ拡大を支える財務中枢へ、UCHKがめざすもの。

Vol.5

グローバル戦略の展望に迫る！-DMHK

Vol.4

時代とともに変化することを選んだコールドフュージョン

Vol.3

社員総会特集 NAKAMA + ? = SYNERGY

Vol.2

IPOまでどれぐらいの距離があるのか？－ユビキキャスト

Vol.1

なぜナチュラリープラス台湾は成長

IN THIS ISSUE

経営陣メッセージ | UNIVA Topics |

HUMAN INSIGHT: 生まれた国も、裕福な生まれすら関係ない。可能性は心が開くことを、バレエから伝えたい。



